

## 平成 30 年度第 2 回みえライフイノベーション総合特区推進本部会議議事概要

- 1 開催日時：平成 31 年 2 月 4 日（月）10:00～10:15
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：次のとおり  
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

### 議題 1 平成 30 年度みえライフイノベーション総合特区計画の取組状況について

#### ●事務局【ライフイノベーション課長】（資料に基づき説明）

##### [みえライフイノベーション総合特区の平成 29 年度評価結果]

- ・ 内閣府の評価結果は 5 点満点中の「3.9」であり、全国のライフイノベーション分野の特区 11 地域中 3 位となり、過去最高の順位となりました。
- ・ 県の分析として、前年度より評価が上がった要因は、総合特区評価指標として設定した 4 項目の全てについて、数値目標等を達成するなど、取組が順調に前進したことが評価されたものと考えています。

##### [平成 30 年度の取組状況]

- ・ 統合型医療情報データベースについては、事業主体である三重大学附属病院等において、目標とする 30 万人分を超える約 37 万 3 千人分（平成 30 年 9 月時点）のデータが収集されています。また、その利活用に向けたセミナーには、製薬企業 12 社を含む 27 社・団体の参加がありました。引き続き、県としては、事業主体である三重大学とも情報共有しながらその活用に向けた取組を進めるとともに、他地域等との連携についての検討を進めています。なお、資料にはありませんが、現在三重大学附属病院長以下と、DB の利用者となる企業などの声も踏まえて、具体的な対応について意見交換・協議を行っているところです。
- ・ 特区推進に向けた県の取組については、①情報発信として、平成 30 年 10 月パシフィコ横浜で開催されました“未病”をテーマとする製品・サービスの展示会に三重県ブースを出展し当特区の取組を PR しました。④医療・福祉機器等の製品化促進につきましては、広域連携による医療・福祉機器産業の活性化を目指す広島県、岐阜県等と協力し、平成 30 年 11 月、東京都にて開催の（「医療機器技術マッチングサイト交流」セミナー）への、企業出展支援等を行いました。県内からは 5 社が出展し、今後の取引等につながる可能性のある案件が生まれています。なお、資料に記載はございませんが、平成 25 年度の三重・広島両県知事の対談を契機に広域企業間連携を行ってきたところ、このたび三重・広島のコラボ第 1 号製品となる、高齢者の立ち上りを助ける介助イスが、発売されることが決まりました。⑤認知症ケア製品等の開発・普及加速化については、現在、製品展示会の開催による販路開拓支援、製品等の改良や、新規開発にかかるニーズ収集を行うとともに、認知症ケアに必要な製品・サービスの創出をめざし、ワークショップを開催し、どのような製品開発を進めていくのが良いかといった具体的な製品等

開発のための企画に取り組んでいます。

[特区推進に向けた県の平成 31 年度の実行方針]

- ・ さまざまなヘルスケア分野の製品・サービスを創出するため、医療・福祉現場等のニーズと県内ものづくり企業の持つ技術等とのマッチングや、国内外の事業者間のマッチングに取り組めます。また、認知症ケア製品等を本県から創出するため、企業、県内大学等と連携し、開発につなげるためのニーズ収集や普及等の促進に取り組めます。
- ・ M i e L I P の活用を促進するため、特区計画に基づく取組の周知に努めるとともに、企業等の製品開発活動に必要なコーディネートを行います。また、三重大医療情報DBの活用を促進するため、三重大学医学部附属病院と製薬企業等との共同研究締結に向けた支援や他地域等の取組との連携可能性の検討等を行います。

[総合特区制度を活用したみえメディカルバレー構想の推進]

- ・ 現在のみえメディカルバレー構想第 4 期計画が平成 31 年度末に計画期間が終了することから、平成 30 年 12 月開催の代表者会議において、実施期間を平成 32 年度から 35 年度とする次期実施計画を策定することが決定されました。
- ・ 次期実施計画策定にあたっては、みえ産業振興ビジョンで示された社会経済情勢の変化等をふまえるとともに、県内企業 1,000 社を対象とするアンケート調査等を実施します。
- ・ 策定スケジュールについては、資料 2 のとおりです。

☆知事（指示事項）

- 1 全国評価は上がったが、MieLIP 以外の市町とも連携するなど、県全体を一つの特区エリアとして一体的にとらえるとともに、本県のブランド力の向上も意識しながら、各部局連携して、一層、取組を進めること。
- 2 医療情報 DB については、特区セミナー参加企業以外にも興味を持っている企業は多数あると思う。事業主体である三重大学附属病院との連携を密にし、攻めの姿勢で営業活動を行うこと。
- 3 メディカルバレー構想については、第 4 期実施計画が来年度最終年度となるのでしっかりと仕上げを行うこと。

☆知事（協議事項）

次期実施計画の策定について事前に説明は受けていないが、そもそも、みえメディカルバレー構想を 10 数年継続し、一定のネットワークができ、一定の成果も挙がっており、また、みえライフイノベーション総合特区の取組もある中で、引き続き仰々しく計画を作って推進していく必要があるのか。産学官が連携してヘルスケア分野の産業振興に取り組むことは大事だが、こう仰々しく計画を作ってまでする

ものかということ議論する必要がある。代表者会議のようなネットワークの枠組みは維持する必要があるが、一定の目標や成果はまあまあ達成している中で、まだ引き継ぎ、同じ行政手法をとってまでやるべきものなのか、と思う。

●ライフイノベーション課長

みえメディカルバレー構想実施計画は、産学官民が連携して策定しています。例えば、学の代表としては、三重大学や鈴鹿医療科学大学が、ヘルスケア産業の振興にどのように取り組んでいくかを書き込んでいくものです。官として、三重県の取組は、みえライフイノベーション総合特区計画の取組を盛り込んでいく形で考えています。また、産の代表としては、例えば、三重県薬事工業会の取組が計画に盛り込まれていくという形です。このように、産学官の全てが事業主体となるオール三重の総合計画という形で考えています。

☆知事

それであれば、各主体がそれぞれ取組目標を持ち、それをネットワークの代表者会議で共有したらいいのでは。別にホッチキスして実施計画にしなくてよいのでは。

●ライフイノベーション課長

代表者会議では、各主体が、お互い何ができるか、何を支援できるか、を検討し、目標を共有して取組を進めていこうという方向性で議論がされています。

☆知事

未だに計画を作る意味が分からない。同じ手法をこれからも採らなければならないのか。データベースの取組に関する指示事項でも言ったが、こういう計画づくりに時間をかけるのであれば、むしろ営業活動に時間をかけたほうがいいのではないかと思う。

●医療保健部長

策定についての報告が不十分でしたので、ご指摘をふまえて内部で検討し、報告します。

☆知事

これまでの成果をふまえて、これからも同じ手法でいいのか。時間も人数も限られている中で、みんなの時間を優先的に割り当てるべきことは何なのか。みんなが考えて、一番大事なことが計画作りであるというならそれでもかまわないが、僕は直感的にそうではないと思う。もっと成果を出すべきやることがあるのではないかと思う。いずれにしても一回協議するように。そういう問題意識を持っている。